

佐世保ならではの資源を生かしたまちづくり

英語で交わる 佐世保のまち

多くの外国人が住み、国際色豊かな風土を持つ佐世保。本市では、本年度からこの恵まれた環境を生かし、グローバル人材を育てる官民連携事業をスタートします。今回の特集では、この取り組みのキックオフイベントとして開催された「英語で交わるまち SASEBO 推進フォーラム」や「英語」に携わる市民の方のインタビュー、市立図書館での取り組みなどについてお知らせします。

佐世保で育まれた 国際色豊かな風土

米海軍基地があり、以前から多くの外国人が住む佐世保のまち。外国人がアーケードを歩き、市内で買い物やランニングを楽しむ姿は、私たち市民にとって日常の風景となっています。しかし、この環境は日本全国を見ると珍しく、この地で育まれた国際色豊かな風土や文化は、佐世保の大きな特徴でもあります。

近年叫ばれる社会全体のグローバル化。企業の海外進出にとどまらず、国内企業でも多くの外国人が働いています。また、高齢化や人口減少に直面する今、そう遠くない将来、外国人と一緒に働くことが当たり前となる時代がやってくるかもしれません。このような中、自分の考えや思いを自分の言葉で伝え、相手の言葉を受け止めること、また言語だけでなく、相手の文化を受け入れ、理解することが出来る人材の育成も重要となってきます。

新たな魅力を官民連携で創出

佐世保に住む私たちの周りには、あふれる英語や外国文化は、これからのグローバル人材を育成する上で貴重な資源であり、大きな可能性があります。本市では、この恵まれた環

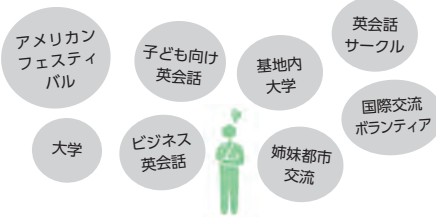
境を生かし「佐世保暮らし」英語が身に付く」という新たなまちの魅力を創出するため、思いを共有する皆さんとの協議会を設置するなど、官民が連携した本格的な取り組みをスタートさせます。

英語のシャワーを浴びる

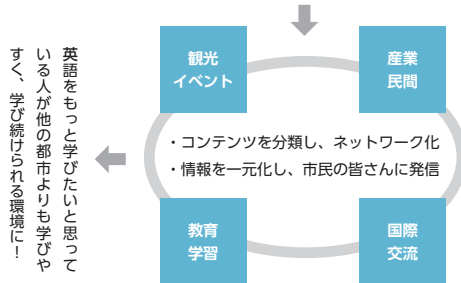
具体的な取り組みとしては、将来を担う子どもたちに対し、異文化理解や英語教育、学習環境の充実を図るとともに、全ての市民の皆さんを対象に「英語シャワー事業」を実施します。英語シャワー事業とは、市内にあふれている英語や外国文化を市民の皆さんがシャワーのように浴びることのできる環境を整えるものです。例えば、毎週末には、いつも市内のどこかで英会話サークルが開催されていたり、外国人とスポーツ交流ができたりますなど、さまざまなコンテンツを用意するとともに、情報を一元化して、市民の皆さんに発信します。それぞれのライフスタイルや趣味などに応じて気軽に英語や外国文化に触れることができる環境を整えることで、佐世保に住みながら、外国文化との距離を感じている市民の皆さんにも、英語・英語文化に対する親しみや、興味・関心を持ってもらうことを目的としています。

英語で交わるまち SASEBO プロジェクト

英語シャワー事業 (英語が身に付く環境づくり)



- ・情報が伝わってこない
- ・身近にある外国文化に気付かない、距離を感じる
- ・一つ一つのコンテンツにつながりがない



英語をもっと学びたいと思っている人が他の都市よりも学びやすく、学び続けられる環境に！

子どもたちの異文化理解や 英語教育・学習環境の充実

- 全ての中学1年生を対象に、外国人が学校を訪問して、授業の中で英語を直接体験する「SASEBO ENGLISH CAMP」を実施します
- 研究モデル校(金比良小・光海中)において、大学や民間事業者と連携し、児童・生徒の英語力の向上を図るとともに、グローバル人材の基本となる基礎学力やコミュニケーション能力を養うための放課後学習支援事業(地域未来塾)を開設します
- 教職員の英語指導力強化を目的に、研修の充実を図ります

官民連携で魅力を創出！



「英語 de キッズ」の様子(7ページ)

佐世保×英語で広がるミライ

英語で交わるまち SASEBO 推進フォーラム

3月25日(土) 市民文化ホール



フォーラムは、本年度からスタートする新しいプロジェクトについて、市民の皆さんにPRし、協力を呼び掛けることを目的に開催しました。当日は、本市出身でアメリカ人の父親を持つ元ミス・ユニバース日本代表の宮本エリアナさんの基調講演や4人の官・民・学の有識者によるパネルディスカッションを行い、約300人が参加しました。宮本さんは「世界に広がる私の可能性」をテーマに講演。「中学3年生で留学するまで、英語が全く話せなかった。最初は大変だったけど、身振り手振りを使ったり、伝えようという気持ちがあればどうにかできる。話せなくてもいいから、チャレンジすることが大事」と、自らの体験を基に、英語に対する思いを話しました。

パネルディスカッションでは、宮本エリアナさん、市内で英会話教室(EAC)を経営する中尾季沙さん、長崎県立大学の山崎祐一教授、朝長則男市長が登壇。市政推進センターの榎貫センター長がコーディネーターを務め、「さまざまな環境で繰り返し英語を聞き、話すことができれば、身に付くのではないかと」「英語という特色を生かしたまちづくりを進めることで、豊かなコミュニケーションになる」など、それぞれの立場で英語の可能性について意見を交わしました。

写真は上段右から、宮本エリアナさん、中尾季沙さん、山崎祐一さん、朝長則男市長、榎貫センター長、下段右からフォーラムの様子、オープニングに登場したGOL★HAF(ゴルハフ)の皆さん

次のページでは、英語を学ぶ上での異文化理解の大切さや、英語で広がる可能性について市民の方のインタビューを紹介いたします。



英語×異文化理解

長崎県立大学
山崎祐一 教授

異文化を理解するための素材にあふれたまち
英語は国際語として一番の通用力があって、いろいろな国の人とコミュニケーションを取ることができですが、英語がいくら取れても、相手の考え方や歴史、社会を知らないとい円滑なコミュニケーションは図ることができません。そこで英語を学ぶ上で切り離せないのが、異文化を理解するということなんです。近所にアメリカ人が住んでいたり、小学校にカタカナの名前のクラスメートがいたり。佐世保には異文化を理解するための生の素材がたくさんあります。もちろん理解するだけではなくて、日本の習慣や考え方を伝えることも大切。お互いに伝え、認め合っているといいですね。

たことがあります。その回答の中に「スーパーのレジで、店員さんが『Have a nice day(よい一日を)』って言うてくれて、また来ようと思った」というものがありました。「Hello」や「May I help you?(何かお手伝いしましょうか)」の一言、笑顔で手を振るだけでも良いと思うんです。そこで、心と心のやりとりが行われているんです。佐世保の人はアーケードの中で英語を話す人を見て振り返らないし、黄色いスクールバスが走っているのも当たり前です。そういうことを考えると、佐世保の人って視野が広くて、外国人に対しての偏見や先入観も意外と少ないんじゃないかと思えます。だからこそ、気軽に話したい人っていっぱいいると思うんです。本年度から始まるプロジェクトを通して、私の分野で少しでもそういう人たちの手助けができたらと思っています。



英語×仕事

通訳案内士
栗林弘さん

英語との関わりを教えてください
私は約20年間、民間企業で海外と取引する仕事をしてきました。必要に迫られて英語を勉強したのがきっかけですが、5年、10年と必死で目の前の仕事をこなしているうちに、英語の書類も読めて、会議でも発言できるレベルになっていました。

野の仕事にチャレンジしています。
英語ができて良かったと思つことはあまりありませんが、仕事をしていると必要には感じますが、良いポジションに就けるとかではなくて、英語が話せると、自分にとって豊かな人生が送られると思つています。私はもう一つの仕事として絵も描いているんですが、それもハワイの画家との出会いがきっかけで、そのときの会話はもちろん英語でした。英語が話せると、可能性や出会う人の幅がぐっと広がります。地球の裏側の全く知らないところに行つて、現地の人と普通に会話できるのはとてもハッピーなことだと思つています。自分が英語を勉強して良かったと思つるのは、そういうときですね。

英語を学ぶということ
以前、商工会議所と共同で佐世保に住んでいる外国人にアンケートを取っ

(取材日)3月21日

でもいろいろな翻訳、通訳に対応できるように毎日英語を聞いて、いろいろな分

(取材日)3月23日

市立図書館で気軽に英語に触れる

市立図書館では現在、市民団体や米海軍関係者と協力しながら、英会話のイベントや英語での読み聞かせ、映画鑑賞会など、市民の皆さんが気軽に英語に触れられる機会を提供しています。


学校や仕事帰りの夕方の時間を活用してネイティブスピーカーと英会話を楽しむ「英語 de 夕活」もその一つ。福岡アメリカセンター（在福岡アメリカ領事館）の協力により毎月開催しています。毎回ボランティアのネイティブスピーカーが参加しており、中学生が対象の「10代のトーク」の回では米海軍基地内の高校生もメンバーに加わります。時にはゲームをしたり、工作をしたりしながら、いろいろな世代の人たちが英語での交流を楽しむ場となっています。

コミュニケーションを楽しむ良い機会に
「このイベントのいいところは、とても自然な雰囲気です。リラックスして会話を楽しめる」ところ」と話すのは、「英語 de 夕活」のコーディネーターを務めるマギー・コンスタンティノさん。横須賀から越えて来て一年半、佐世保のまちが大好きというマギーさんは、ボランティア数名と一緒に、この毎月のイベントの運営を行っています。取材をした日のテーマは「ア

メリカ式の節約」。マギーさんの友人の女性3人と参加者約20人が、各自の節約方法を紹介するなど、自由な会話を楽しみました。
「会話はもちろん、参加している人から日本のことや佐世保のこと、日本語を教わってもらうのも好き。私自身もこのイベントを楽しんでいるんです」とマギーさん。「佐世保に住むアメリカ人からもっと日本の人と話してみたいけどあまり機会がないという声も聞きます。このイベントがお互いに理解したり、コミュニケーションを楽しむ良い機会になっていると思いますよ」と話してくれました。参加者からも「せっかく佐世保に住んでいるので、こういう場所があればいいと思います」「定期的に開催してほしい」といった声も寄せられています。
(取材日＝3月16日)

5月以降の「英語 de 夕活」日程
①日 時：5月18日(木)
17時30分～19時
テーマ：10代のトーク4
対象：中学生
②日 時：6月8日(木)
18時～19時30分
テーマ：アメリカ各地のアクセントについて
対象：成人男女
※参加を希望する人は市立図書館(☎22-5618)に電話で申し込んでください。受け付けは①5月7日(日)、②5月25日(木)から開始します。

行政と市民が力を合わせて
魅力ある佐世保のまちに



「英語で交わるまち SASEBO」のプロジェクトは、行政だけでなく「佐世保を英語が話せるまちにしたい」という思いを共有する皆さんと組織を結成しながら、官民連携で具体的な取り組みを展開していくこととしています。「市内で英会話教室をしている」「英語に興味がある」「自分に何かできることがあるかもしれない」という思いを持つ皆さん、「英語」をキーワードに、一緒に魅力あふれる佐世保のまちを作っていきましょう。

第1回キックオフミーティング
この取り組みに興味のある皆さんを対象にキックオフミーティングを開催します。皆さんの参加をお待ちしています。

日 時 5月13日(土)
場 所 中央公民館(常盤町)
内 容 英語をキーワードに「私たちが学びたいこと、できそうなこと」について語り合う
定 員 先着100名
申し込み・問い合わせ
☎社会教育課 24-1111

特集に関する問い合わせ
社会教育課
☎24-1111

英語 de キッズ(国際ソロプチミスト佐世保パール主催)



市立図書館では、英語 de 夕活の他にも、英語の読み聞かせや英語での上映会などを計画しており、皆さんの参加をお待ちしています。詳しくは市立図書館のホームページをご覧ください。
市立図書館 ☎22-5618

英語 de 夕活



約20人が参加した3月16日の様子。英語での会話や簡単な工作などを楽しみました。
写真右上がコーディネーターを務めるマギー・コンスタンティノさん。